新入会員開発マニュアル

NEW JAYCEE

JCI Junior Chamber International Japan

新入会員開発マニュアル

NEW JAYCEE

JCI Junior Chamber International Japan

目　次

改訂にあたって …… P.5

STEP Ⅰ　ＪＣ・ＪＡＹＣＥＥに関して

1 ＪＣ（青年会議所）とは …… P.7
2 ＪＣの誕生 …… P.8
3 ＪＣⅠ　ＣＲＥＥＤ …… P.9
4 ＪＣⅠ　ＭＩＳＳＩＯＮ …… P.10
5 ＪＣ理念の流れ …… P.11
6 ＪＣ三信条 …… P.12
7 ＪＣ綱領 …… P.13
8 ＪＣ宣言 …… P.14
9 ＪＣでの心得と心構え …… P.15

STEP Ⅱ　組織と活動に関して

10 ＪＣの組織 …… P.17
11 国際青年会議所（ＪＣＩ） …… P.18
12 例会とは …… P.19
13 委員会とは …… P.20
14 公益社団法人格の重み …… P.21
15 スポンサーシップとは …… P.22
16 現役とＯＢ …… P.23
17 時間の使い方 …… P.24
18 自己啓発の意義 …… P.25
19 ＪＣの活性化 …… P.26
20 ＪＣと企業経営 …… P.27
21 ＪＣと事業 …… P.28
22 事業計画５サイクル …… P.29
23 まちづくり（社会開発（CD））とは何か …… P.30
24 ひとづくり（指導力開発（LD））とは何か …… P.31
25 人間力開発（HD）とは何か …… P.32
26 社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）とは …… P.32
27 ＪＣと地域社会 …… P.33
28 ＪＣと行政政治 …… P.33
29 ＪＣと教育問題 …… P.34
30 ＪＣと文化 …… P.35
31 ＪＣと国際活動 …… P.36
32 ＪＣと国際協力 …… P.37
33 ＪＣと環境運動 …… P.37
34 ＪＣと福祉問題 …… P.38

目　次

STEP Ⅲ　ＪＣ運動と主な事業に関して

35 ＪＣ活動とＪＣ運動 …… P.41
36 ２０１０年代運動指針 …… P.42
37 日本青年会議所の主な大会 …… P.45
38 ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動 …… P.46
39 ＯＴＯＮＡＮＯＳＥＮＡＫＡ運動 …… P.47
40 人間力大賞 …… P.49
41 ＪＣ褒賞制度 …… P.50
42 ＪＣＩ トレーニング …… P.51
43 ＪＣと世論（市民討議会） …… P.52
44 ＪＣと憲法問題 …… P.53
45 ＪＣと選挙（公開討論会） …… P.54
46 ＪＣと災害復旧活動 …… P.55

STEP Ⅳ　その他

47 責任ある言動と行動を …… P.57
48 積極的自己ＰＲを …… P.57
49 自主的な参加を …… P.58
50 ＪＣ会員としてのマナー …… P.58
51 ＪＣカジュアル …… P.59
52 会議の必要性と種類 …… P.60
53 議事録作成の心得 …… P.61
54 効果的な話し方 …… P.62
55 ＪＣ用語・単語 …… P.63
56 Ｉ.ＯＭの素顔 …… P.69
57 日本ＪＣ現勢図 …… P.70
58 ＪＣの歌 …… P.71

改訂にあたって

今を遡ること６０余年前、戦後荒廃の中で東京の地に青年会議所運動が産声を上げました。それは「新日本の再建は我々青年の仕事である」とした高い志であり、祖国を愛する青年のやむにやまれぬ情熱が生み出した自然発生的な運動でした。

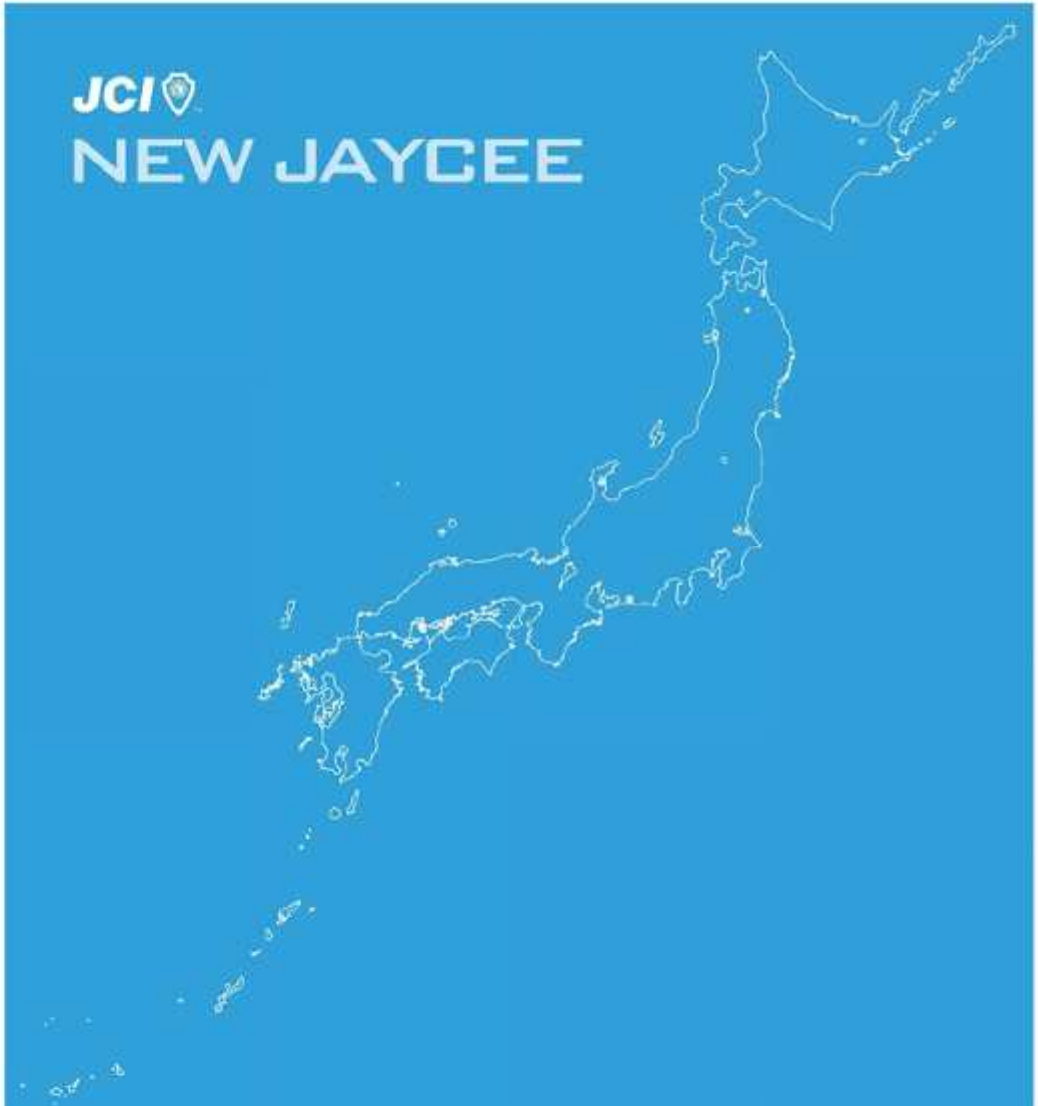
そして、２０１０年代を迎えた今、時代は混迷を極めています。私たちは創始の気概を取り戻し、更に青年会議所運動を進化させることが求められているのです。地域社会が急激な変化の中にあるこの時代、地域社会のリーダーたらんとする私たち青年が本当の意味で必要とされているのではないでしょうか。

本書『ＮＥＷ ＪＡＹＣＥＥ』はこれからの青年会議所運動を背負う新たな仲間のために作成されています。このマニュアルを存分に活用していただき、より活発で効果的な青年会議所運動が全国各地で展開されることを強く念願する次第です。ぜひとも新入会員必携の書として用いて下さい。

なお、本改訂版より時代の趨勢に合わせてＷＥＢ ＢＯＯＫ形式での閲覧及び使用も可能といたしました。より便利に全国の会員会議所会員の為になるものとなったならば幸甚です。

改訂・編集
２０１０年度　公益社団法人日本青年会議所

JCI
NEW JAYCEE



JC・JAYCEEに関して

STEP I

1 ＪＣ（青年会議所）とは

青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った２０歳～４０歳までの指導者たらんとする青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域の青年会議所に入会することができます。

全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京・千代田区にあります。また、アメリカ・セントルイスには国際青年会議所（ＪＣＩ）事務局があります。現在、１２４の国及び地域に１１０国家青年会議所（ＮＯＭ）を数え、１７０，０５３人（２０１０年１１月現在）が国際的な連携をもって活動しています。

日本青年会議所の綱領には、青年会議所の行動理念と目標を明確に表現しています。創立以来の「三信条」は、ＪＣ運動の歴史を追って具体化され、青年会議所運動とは、「指導力開発（ＬＤ）と社会開発（ＣＤ）」であるとも言われてきました。その後に、ＪＣ運動の機軸は「自らに活力と知力を兼ね備え積極果敢に社会改革運動を実践できる人間」であるとの考えから「人間力開発」も必要であるとし、日常の活動の場を通して、われわれ自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所なのです。

2 ＪＣの誕生

ＪＣの誕生は国によってその原点は異なることがあるが、ＪＣＩの誕生に至るまではアメリカＪＣの活動力によるところがとても大きくありました。

１９０５年の初め、セントルイスの若い銀行員ヘンリー・ギッセンバイヤーは、この社会は青年が真に活躍すべきであるが、その為には伝達の媒体が足りないと思っていました。１９１０年、彼は「青年の活動」に心を燃やし、「ハーキュレイニアム・ダンシング・クラブ（巨大なダンスクラブの意）」を起こしました。これは社会団体として初歩的なものであり、もっぱらミーティング場所となっていました。やがて、セントルイス商工会議所と友好関係を持つようになり、１９１８年「青年商工会議所」と命名して発足し、さらに１９３０年にＪＣマークがデザインされ、１９４４年メキシコ・シティーにおいて「国際青年会議所」の設立決定がなされました。

一方、日本では、第二次世界大戦直後において、精神的にも物質的にも極度に荒廃した状態にあった時、経済界で活躍している青年達の間に一つのグループを作ろうという機運が生じました。それは、青年らしい情熱を燃やして“よりよい社会”を築き上げていこうというものでした。

この趣旨のもとに集まった青年の手によって東京青年商工会議所が１９４９年９月３日に設立され、これが日本の青年会議所運動の皮切りになりました。

3 JCI CREED

JCI CREED

We Believe:
我々はかく信じる

That faith in God gives meaning and purpose to human life;
信仰は人生に意義と目的を与え

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
人類の同胞愛は国家の主権を超越し

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最もよく達成され

That government should be of laws rather than of men;
政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり

That earth's great treasure lies in human personality ; and
人間の個性はこの世の至宝であり

That service to humanity is the best work of life.
人類への奉仕が人生最高の仕事である

ＪＣＩクリードは、ＪＣＩの定款に示されている条項の一つであり、われわれＪＡＹＣＥＥの行動の最も基本的な理念となっており、六節で構成されています。

●第一節　人間は信仰という紐帯で結ばれており、神の意志により生きる人間の情の深さと幅広さは無限である。
●第二節　人類の兄弟愛は、国境を越えて権力、文明、統治等よりも上に属する。
●第三節　我々は、企業活動を通して豊かな生活を追い求める力こそが自己開発となり、最大限の将来の発展への希望である。
●第四節　政治とは人民を支配するためのものではなく、人民の仕事、研究及び社会奉仕によって法を作ることで政治は人民に由来する。
●第五節　物質的富でなく無形の富こそが、永続的に価値を発揮しており、人間性という無形の財産の蓄積が人類の進歩である。
●第六節　利他的に生きる人生は永続的に豊かに、深く、満ち足りたものになり、結果として利己に最大の恩恵を施される。

4 JCI MISSION

ＪＣＩでは世界で同じ綱領・使命・価値観を共有して、ＪＣ運動を展開していくためにＪＣＩクリードに加えて、ＪＣＩミッションやＪＣＩビジョンなどを規定している。

これらは、ＪＣＩトレーニングプログラムのＶＭＶなどで詳しく知ることができるが、日本青年会議所でも、２００９年にＡＳＰＡＣ長野大会、２０１０年世界会議大阪大会を経て、２０１１年には１５年ぶりにＪＣＩ会頭を日本から輩出するにあたり、ＪＣＩミッションを唱和し始めることとした。

JCI MISSION

To provide development opportunities
that empower young people
to create positive change

（日本語訳）

ＪＣＩのミッション（使命）

青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的に活動できる機会を提供する。

5 ＪＣ理念の流れ

ＪＣ理念は１０年単位の節を持っています。

1950年（昭和25年） 第一期（1950年代） **JC三信条**

１９５０年に「個人の修練・社会への奉仕・世界との友情」という三信条が生まれ、ＪＣ設立当初のスローガンとして掲げられ、ＪＣ運動が全国的に展開されていった時代。

1960年（昭和35年） 第二期（1960年代） **JC綱領**

「ＪＣとは何か」の議論の中から新運動理念が求められ、１９６０年代に制定されたのが「ＪＣ綱領」であり、「明るい豊かなまちづくり」を目指して各地でコミュニティづくりの為の社会開発運動が展開されていった。

1970年（昭和45年） 第三期（1970年代） **JC宣言**

１９６０年代の社会開発運動を受けて「ＪＣ宣言」を１９７０年代に採択。ＪＣが目指す国家・社会のイメージが具体化された。また、５００字解説文によってＪＣとその運動が極めて明瞭にされた。

1980年（昭和55年） 第四期（1980年代） **JC運動指針**

８０年代の時代認識に立ち、ＪＣ運動の三基軸と8つの柱が採択され、社会の変化に対応するＪＣ運動のあり方が提言された。

1990年（平成2年） 第五期（1990年代） **新JC運動指針**

２０００年までの長期的な洞察に基づき、予測される時代の変化に対応していくための指標が提言された。

2000年（平成12年） 第六期（2000年代） **人間力あふれる社会起業家の育成**

「個と公の調和」のとれた「活力と知力」あふれる社会の創造を目指し、新世紀の扉を開くために、社会起業家の育成が重要であると示された。

2010年（平成22年） 第七期（2010年代） **己を律し、行動するJAYCEE**

「自立」と「共助」が調和し、「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が漲る社会を実現するために、論ずることに終わらない、行動に移すことの重要性が示された。

6 ＪＣ三信条

トレーニング　＝　個人の修練
サービス　＝　社会への奉仕
フレンドシップ　＝　世界との友情

１９５０年５月１日にＪＣの行動綱領としてこの三信条が採択されました。ＪＣ運動とは若い人々が集まって自己啓発・修練を行う場であり、培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）することであると示されました。ただし、上記に記載されたフレンドシップ（友情）とは違う意味で、会員全員、同志を貫く友情があるということは言うまでもありません。

なお、これらの言葉以外にもＪａｙｃｅｅを表す言葉として、「英知と勇気と情熱」と表現されることが多いが、この言葉は下記の文節から採用されたとされている。

God grant me the serenity
to accept the things I cannot change,
the courage to change the things I can;
and the wisdom to know the difference.

ラインハルト・ニーバー

「変えてはならないものを受け入れる、心の冷静さを我に与えたまえ」　情熱
「変えるべきものを変える、チャレンジする勇気を我に与えたまえ」　勇気
「変えていくものと残すもの、その２つを見分ける英知を我に与えたまえ」　英知

この中で、「冷静」と記載されているものを、ＪＣに適切な言葉として、転じて「情熱」と表現されていると言われている。

7 ＪＣ綱領

われわれＪＡＹＣＥＥは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

ＪＡＹＣＥＥの意志を統一し、日本青年会議所のあり方を再認識する為、１９６０年に日本独自のものとしてＪＣ綱領が制定された。この綱領は、青年会議所としての理念を確立し、ＪＡＹＣＥＥの運動目標を明確に位置づけたもので、４節で構成されている。

●第一節　地域社会、国家としての日本、そして国際規模の活動というＪＣのあるべき立場を明確にしている。
●第二節　同じ考え方、立場にある人達が集まり、その力を集結してことにあたるという行動指針である。
●第三節　若者らしいその行動には、英知と勇気と情熱をもってあたるべきであることを説く。
●第四節　ＪＣ運動の目標を示している。

8 ＪＣ宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

「ＪＣ宣言」は、「綱領」と並ぶ日本のＪＡＹＣＥＥの目指すべき基本として掲げられており、時代の変化に対応して現在のＪＣ宣言の内容は上記のように２００１年大阪全国大会にて承認されました。

ＮＰＯやＮＧＯが多く設立された現在、それまでその役割を担ってきたＪＣ及びＪＡＹＣＥＥのアイデンティティを明確に示すため、日本の全てのＬＯＭが共通に使える“我々”を、日本の青年会議所は、として始まっています。

“混沌”とはエネルギーが充満したニュートラルな状態を表し、それをどのように切り拓いていくか、青年会議所の真価が問われている、とされています。

また、ボランティアであると同時に経済人であることが我々ＪＣの存在基盤であり、自立と同時に公共にいかに貢献するかを考え行動することが必要であるとしています。

「生き生きと調和する」とは、そのバランスを取ることにより、“混沌”から“確かな時代”を築くことになる、としています。

そして、この目的を達成する為にすべきことは「率先して行動すること」、つまり様々な地域において、地域のリーダーとして具体的に行動することであり、それが我々の使命であり、存在意義であるとしています。

9 ＪＣでの心得と心構え

■ 会員の心得

充実したＪＣライフをおくる為に、ＪＣをよく理解しなければならない。
常に自分の考えをわかり易く表現することが出来なければならない。
常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
進んで難しい仕事に当り、責任をもって完成させなければならない。
議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
完全な議事録を作成出来なければならない。
会議の議長を務めることが出来なければならない。
与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表出来なければならない。

■ 会員の心構え

常に高い目標を持ち、その目標に向かって努力しなければならない。
自分自身を知り、向上させなければならない。
目的に向かって計画的に自己を管理しなければならない。
特に自分自身の健康管理をしなければならない。
確固たる信念と強い意志のもとに、目標に向かって直ちに行動を開始しなければならない。
一日一度は自分を見直すこと。
地域社会の活動に進んで参加しなければならない。
ＪＣ運動を地域社会に広めなければならない。

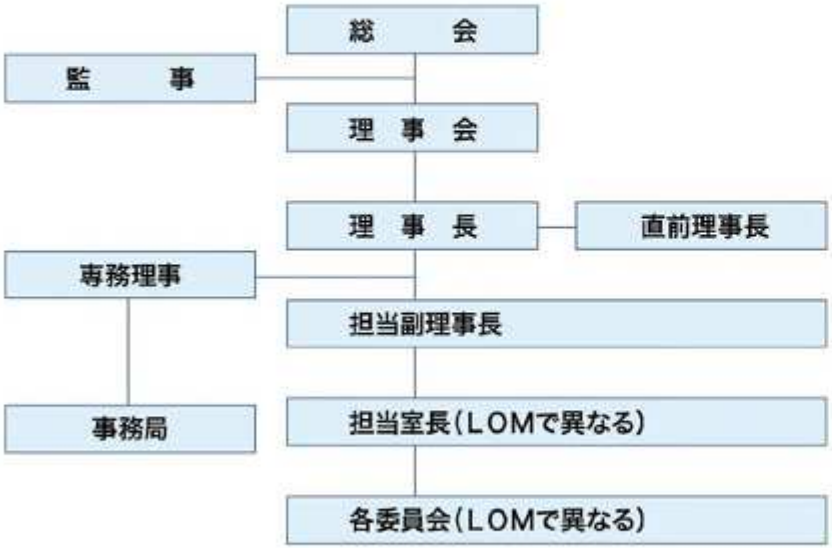
JCI
NEW JAYCEE

組織と活動に関して

STEP II

10 ＪＣの組織

〈ＬＯＭの一般的組織〉



11 国際青年会議所（ＪＣＩ）

ＪＣＩとは、１９４４年にアメリカ、コスタリカ、メキシコ、エルサルバドール、グァテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマの８ヵ国の代表が集まって誕生した青年会議所の国際組織です。その目的は、積極的変化を創りだすのに必要な指導力の開発、社会的責任及び友情を深めるために青年に機会を与えることによって地球社会の発展に寄与することとなっています。

本部は、アメリカのセントルイスにあり、約２０名のスタッフが、個人会員・ＬＯＭ・ＮＯＭ・ＪＣＩ役員へのサービスを提供し、ＪＣＩの年間・長期計画立案に加わり、ＪＣＩ組織の拡大・発展に寄与している。なお、公式通信用語は、英語、フランス語、スペイン語、日本語の４カ国語です。

最大の事業は、全世界のＪＣの代表が一堂に集まるＪＣＩ世界会議開催です。日本では、過去に東京、京都、大阪（３回）、名古屋、神戸、札幌、福岡で９回の世界会議が開催されています。

12 例会とは

例会は、会員相互の意見交換・会員の友好促進・会員としての意識の高揚・会員間連帯のきずなを深めるといった為の会合で、基本的には「月１回以上」開催されるもので、すべてのＪＣ活動の基盤となっています。例会の主催者はＬＯＭの理事長であり、理事長挨拶をメンバー全員が一堂に集まって聞くことができる場であり、それ以外にも委員会や事業の説明などがある。従って、例会に出席することは会員として義務であり、１００％の出席が出来るよう努力することが必要である。

〈例会出席のマナー〉

- 会員としての品位ある服装をすること。
- ＪＣバッチ、背広、ネクタイ着用、ネームプレートは必ずつける。
- 会場では、私語・雑談を慎み、みだりに席を立たないこと。
- 目的意識を持って参加すること。
- 欠席の場合は必ず例会担当委員会や事務局などに連絡をすること。

13 委員会とは

団体組織では、仕事を手際よく処理する為に委員会を設置することがあり、この方法はＪＣでも同様で会議・委員会という組織を持っています。

どのような委員会を設置するかは、理事長の意思により決定ができるとともに、役員や会員の提案にもよる場合があります。いずれの場合も、必ず理事会の承認を得ることが必要です。

ＬＯＭの委員会には通常二種類あるとされており、常任委員会と特別委員会がそれであり、メンバーは原則としていずれかの委員会に所属しなければなりません。

委員会事業は、計画の事前・事後に理事会の承認を得なければならず、そして決定された事業を責任持って遂行することが重要であり、委員会の決定事項は理事会の最終決定を意味するものではなく、また外部的拘束もありません。

委員会は会合の日時や場所を、主に委員長が指定することが出来ますが、それらを各委員に責任を持って知らせなければならない。さらに定足数として決められた人数の出席がなければ、委員会は議題の処理を行えないのが普通である。規定がない場合、過半数を定足数とする。また、委員会でもロバート議事法による議事進行が望ましい。

14 公益社団法人格の重み

１９５１年２月、日本経済の建設にたずさわる我々青年が同士相寄り、相互の啓発と社会への奉仕を通じて、広く全世界の青年と提携し、日本経済の推進力に寄与してきました。そのような中、１８９６年（明治２９年）の民法で定められていた公益法人制度の抜本的見直しに伴い、２００６年６月、「民間の団体が自発的に行う公益を目的とする事業の実施が公益の増進のために重要」との認識のもと、「公益の増資および活力ある社会の実現に資すること」を目的に、公益社団法人及び公益財団法人の認定に関する法律ほか二法が制定されました。

日本青年会議所も今まで以上に公益性を高め、社会の付託と信頼により応えられる組織への進化を遂げることを目的に、２００９年度に日本青年会議所では内閣総理大臣に対し公益社団法人への移行認定申請をいたしました。そして、２０１０年６月２４日付けをもって公益社団法人としての認定をいただき、登記を完了し７月１日から新たに公益社団法人日本青年会議所として移行いたしました。

15 スポンサーシップとは

青年会議所への入会には、通常二人以上のスポンサーが必要とされています。このスポンサーの存在は、単にＪＣに入会させるということには留まらず、入会から卒業までの保証人的立場となります。従って、スポンサーをするということは、その会員の為に責任を持ってしなければならないことがあり、それをスポンサーシップと呼んでいる。反対語としては、フェローシップとされています。

- スポンサーした会員の行動に責任を持つ。
- スポンサーした会員のスリーピングや退会に際して責任を持つ。
- スポンサーした会員に金銭関係のトラブル（会費未納等）が生じた場合の責任を持つ。
- スポンサーした会員に青年会議所を教え、また、先輩に紹介する。　　など

こうしたスポンサーシップの意識が薄れると、ＪＣの伝統や慣習の継承が極めて稀薄になり、無責任な会員やスリーピングメンバーの助長に繋がってしまうことになるので、スポンサーシップの重要性とその責任を再認識をしてもらいたい。

16 現役とＯＢ

ＪＣが４０歳定年制をしているのは、あくまで若者の発想を大切にしているからです。従って、ＪＣの主体性はあくまで現役にあります。

東京青年会議所が設立されて６０年を迎えた現在の青年会議所には多くの歴史が刻まれており、それは幾多のＯＢの汗と涙の結晶である。そして今日、そのＯＢ会員数は１６万人を超えており、現役メンバーよりはるかに多い数字になっています。われわれ現役メンバーは、ＯＢの偉業を賛えると共に、これからもＯＢとの連携を強めていくことを考えなければなりません。

様々な分野の第一線で活躍するＯＢから学びとるところは沢山あります。ＪＣの運営にあたっては、それをそのまま受容するということではなく、参考意見として聞き、時流にあったものに変えていくことが現役の使命でもあります。

17 時間の使い方

会員としての「時間」を捉えるならば、企業・家族・ＪＣを全うするのは、時間との戦いでもあります。

時間は、貯められないもの。貸せないもの。借りられないもの。

であるが故に、時間管理を上手にしなければならない。１日２４時間と太陽の光だけは万人に平等なものとよく言われるが、それをどう活かすかは本人次第です。

「ＪＣに参加するための時間がない」という会員がいるが、時間とはつくられるものではなく、自らつくるものです。時間がないという人ほど、その貴重な時間を浪費しているのではないでしょうか。会員である以上、各自の時間に対する価値観があるという言い訳は、基本的に通りません。忙しい人ほど時間がないとは言わないものです。

真の時間づくりは、「終わる時を知り、終わる時を決めること」にある。時は金なり、即ち「時こそ価値創造の原価」なのです。

18 自己啓発の意識

挑戦によって啓発されるのだ!!

ＪＣは何かを与えてくれるところではなく、積極的参加によって自らがＪＣで何かをつかみ取るところです。従って、大切なことは、目的意識を持つことであり、参加する為のプランニングも重要です。つまり、すべては自分の心の持ち方なのです。

真に人の上に立って行動する為には、まず本気になって自己を訓練し、教育することであり、自分が受ける苦労を乗り越えるところに自己啓発があるともいえるのです。

求めよ！さらば与えられん！

会員は人から強要されて参加・行動したりするのではなく、常に何事に対しても自らの積極的な姿勢が必要なのです。

19 ＪＣの活性化

ＪＣ活動や運動には、沈滞や停滞があってはなりません。会員には４０歳定年制があり、毎年新入会員を入会させる制度が相まって、絶えず会員の新陳代謝を図っているのは、いつの時代も地域社会のリーダーであるべきポジショニングを維持することにあります。従って、全員参加のＪＣ活動・運動を展開するようにいつも心掛けなければなりません。

ＪＣの活性化は、内部に積極性・活気がなければ生まれません。会員の消極的・受動的行動の中からは何も生まれないのです。もし、ＪＣがつまらないと感じたならば、それを批判する前に、まずはその状況を自らの手で変えるという意識を持つべきです。

そうした意味では、会員はＪＣに対して一途になる「パラノイア」でなければならないともいえるのです。

20 ＪＣと企業経営

ＪＣと企業について考える時に大切なことは、地域社会と企業の関係です。地域社会が発展してはじめて企業の発展があることを忘れてはなりません。人は皆、企業・生業を持つ一方で、自分の自由な時間を有効に使うべきであり、その時間をボランタリーな運動、即ちＪＣに参加しているのがわれわれＪａｙｃｅｅです。従って、常にＪＣも企業も全うするという意識を持つべきです。就業時間中にＪＣに参加しなければならないこともある為、企業に迷惑をかけていることを常に忘れてはいけません。そして、その意識のもつことで、積極的な勉強への姿勢が育くまれなければならないのです。

ＪＣは個の能力を高める場であり、企業は能力を発揮する場です。即ち、ＪＣで開発された能力を企業に生かすことで、地域社会への発展への寄与と相まってそれが企業に繋がる運動へと繋がっていくこと、ＪＣと企業が両立することに気付いた人は、素晴しいＪＣライフをおくることが出来るでしょう。

経営について考えれば、多くのＪＣメンバーが中小企業の経営者であり、経済不況に加え、人口の減少高齢化の加速など後継者不足など様々な問題を抱えています。そうした様々な問題に対応するプログラムも展開しており、その目的は地域から必要とされる企業づくりの基礎を理解し、そして地域との関わりを重視した経営が出来る青年経済人の開発、育成としています。

21 ＪＣと事業

指導力開発を推進するためのもっとも有効な手段として、青年会議所には社会開発事業を中心とする事業があります。会員はＪＡＹＣＥＥとしてその地域に住む住民であり、一市民です。「明るい豊かな社会」の創造のために、それぞれが住む街の諸問題を掘り起こし、そのときに単に市民という立場だけでなく、リーダーシップを発揮してその解決にあたらなければならないのです。即ち、青年会議所が計画実施する事業とは、地域や市民に受け入れられるものであるべきであり、地域や市民を巻き込んだ形で展開される必要があります。

従って、地域に、市民に信頼され、地域•市民をリードするにふさわしい資質を備え、常に「明るい豊かな社会」を創り上げるための事業を検討し、実施しなければならないのです。

こうした社会開発事業はもちろん引き継がれるものですが、最近はひとづくりの手段として国際貢献への取り組みも行われています。世界各国を舞台とした国際貢献活動を通じて、よりグローバルな資質の向上を図っていきましょう。

22 事業計画５サイクル

日本青年会議所創立以来、その歴史的過程で社会開発計画の果たしてきた役割は大きく、特に、事業計画５サイクルを導入して以来、ＪＣ運動は飛躍的発展を遂げたともいえます。※以前はＣＤ５サイクルとされていたが、事業計画を構築する上で効果的と思われるため、名称を変更しました。

第１段階　調査（現状の把握）

- ❶ 現状の把握調査（第一次世論調査）
- ❷ 問題の発見調査（総合生活指標と欲求の開発）
- ❸ 追跡調査（第二次世論調査）

第２段階　分析（問題の診断）

- ❶ プラス・マイナス要因の分析
- ❷ 重要性・緊急性や可能性の検討
- ❸ 優先順位や戦略上のポイントの決定

第３段階　企画（対策立案）

- ❶ 水準引上げ対策や組織志向的対策
- ❷ 活用可能な諸施設・協働できる諸機関・諸団体の検討
- ❸ 技術的手段、内在的手段の検討

第４段階　行動（集団化活動の実践）

- ❶ 対策の実践活動
- ❷ 集団づくり（ＣＤ）の前提

第５段階　評価（活動の評価）

- ❶ 実践による効果の検討・評価

23 まちづくり（社会開発（ＣＤ））とは何か

「まち」の定義とは、道やビル、観光施設などといった「モノ」、「場所」のみではなく、そこに「ヒト」が存在し生活している中に、社会・経済・文化・環境が生まれてこそ「まち」であるといえます。言い換えれば「まち」とは、そこに住んでいる私であり、あなたであるともいえるのです。

「まちづくり（ＣＤ＝Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ）」とは単なる空間の創造や機構の設立だけではなく、社会・経済・文化・環境といった生活の根に繋がるものを構成するあらゆるファクターをも含めた、まちの住民の暮らしそのものの創造なのです。

従って、自治体や民間企業、専門家などによる空間づくりだけではなく、市民やＮＰＯが直面する様々な問題を解決するための活動を含めた総合的な行為によって実現されるものであり、生活を取り巻くあらゆる要素を総合的に検討・判断し、多角的・継続的な活動を通して、真に豊かなまちの暮らしを創造してゆくことこそが「まちづくり」なのです。ここで大切なのは、市民が力を合わせてまちを永続的に作っていく事です。その力が活性化する様、各地青年会議所はまちづくりを行うと同時に、常にまちづくりが出来る人材を育成しているのです。

Ｊａｙｃｅｅは、企業を基盤としてまちづくりをおこなっています。企業の商品もしくはサービスそのものがまちの為に貢献している事で、企業にもまちにも利益を生み、一市民でもある従業員を育成する事により、ひいては活発なまちをつくる市民意識が向上していきます。

自分たちの子供に、今よりも良い環境を残すという責任を負っている気持ちを持ち、地域社会開発をどう展開していくかが青年会議所の主要なテーマになっているのです。

STEP II

24 ひとづくり（指導力開発（ＬＤ））とは何か

われわれは一人で生きているのではなく、他の人々との関わり合いの中で生活をしています。即ち、集団の中で生きており、その集団が機能するには、中心となる人間の存在が不可欠なのです。そして、その集団の機能が高いか否かは、リーダーの質にかかっていると同時に集団のメンバーの質にかかっているのです。

人間は、誰しもが各種の集団のメンバーであり
ある次元ではフォロアーであると同時に
異なる次元ではリーダーである。

従って、われわれはあらゆる集団において何かを成し得る人間になる為に、自分自身の中に良きリーダーシップと共に、良きフォロアーシップを確立すべく、常日頃から努力することが大切なのです。お互いを動機づけ、刺激し合う中から切磋琢磨し、各自の隠された能力を開発し、人間形成をしていくことがリーダーシップ・ディベロップメント（ＬＤ－Ｌｅａｄｅｒｓｈｉｐ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ）なのです。

青年会議所の指導力開発とは、民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であると言われている。まず、会員個人が優れた市民・職業人である為に自らを厳しく訓練し、更に、市民社会の中にあって、市民を目標に向けて一致協力するように働きかけながら市民と共に歩む。その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

現在、日本ＪＣの中に指導力開発委員会という名称は残っていません。日本ＪＣの長い事業の歴史の中で、事業が発展し、より高度化してきた結果、人材育成とまちづくり運動などが複合化したためです。しかし、若き指導者を育てる指導力開発の目的と活動は依然、地区協議会、ブロック協議会に引き継がれ、また各地のＬＯＭでも活発に行われているのです。

STEP II

25 人間力開発（ＨＤ）とは何か

社会開発、指導力開発が長い間言われてきましたが、これらを統合する新たな視点としてクローズアップされたのが人間力開発（Ｈｕｍａｎ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ）です。

２０００年代運動指針の柱の一つに「個と公の調和」が挙げられていますが、自己責任を曖昧にする弊害がいたるところで顕在化している日本の現状を正さなければならない、ということから個の重要性と共に自分の生まれ育ったまちや国に対する帰属感や誇り、すなわち公の重要性にも十分配慮された社会を目指しています。こうした中で、ＪＣ運動の機軸は、自らに活力と知力とを兼ね備えた積極果敢に社会改革運動を実践できる人間、そんな人間力の開発に求められるべきであり、ＪＣ運動が理想とする「まちづくり」とは、すべての市民を視野に入れた「ひとづくり」、すなわち「人間力開発」の運動であるべき、とされているのです。

STEP II

26 社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）とは

ＪＣのアイデンティティとして「社会起業家」という概念が２０００年代前半に示された。日本ＪＣはＮＰＯのような市民団体に進むべきか、あるいは青年経済人の色を濃くした経済団体の道を選択するのか、重要な模索が続く中、示されたのが社会起業家の標榜でした。

社会起業家とは、それぞれが社会に貢献する起業をする人、すなわち営利・非営利を問わず自由闊達に社会的価値のあることを創造し、実践していく人である。」Ｃは、市民団体でもない、単なる経済団体でもない、第３の道を選んだのです。２１世紀の人づくりの方向は、「人間力あふれる社会起業家の育成」へと進んでいます。

STEP II

27 ＪＣと地域社会

「明るい豊かな社会」の創造を目指すＪＣは地域社会での運動がその基本です。従って、ＪＣは、地域社会に信用され、必要とされる団体でなければなりません。これまでの幾多の先輩によって築き上げられてきた歴史の中で、今や地域を代表する団体になったことに感謝しなければなりません。

しかし、時代の変革と共に、地域社会が欲求するものは多様・高度化しており、それぞれの地域に生活している人々の間にもっと強い連帯感と愛情を育んで、市民主導型の地域社会づくりに努めなければなりません。また、その為には他の地域団体との交流をも深め、ＪＣ運動の幅とパワーをもっともっとアップさせていくことが必要です。われわれ会員がＪＣの基本を忘れたり、精進を怠ったりした時、あっという間に地域社会とは歩調の合わない団体になってしまうということを絶えず意識しなければなりません。

STEP II

28 ＪＣと行政政治

しばし選挙政治と行政政治とが混同されることがありますが、青年会議所は、本来の目的からすれば行政政治には大いに関与すべきであるともいえます。

今日の行政の周囲の団体は、選挙や利権等の利害の絡み合った圧力団体が多く、民主主義体制の中で市民が真に求めるものを行政に正しく提供できる団体が極めて少ないともいえます。ＪＣこそ、それが出来る団体であり、良い意味での圧力団体となるべきなのです。

ＪＣが行政政治に関心を持つ時、また、自分の住むコミュニティに問題を提起する時には大いなる意見具申が必要です。その時に、ＣＤ手法・広報・公聴など様々な手法によって市民の考えをまとめ、行政にインプットし、それによって出てくる政策等を市民に正しく伝える役割を演ずることが重要なのです。時に、ＪＣは「政策団体」と言われる由縁がここにあります。

STEP II

29 ＪＣと教育問題

教育とは、人間らしさを打ちたてることです。今、世界のリーダーとしての貢献を考える時、日本民族の特性である自由と勤勉の精神のもとに、自立心に富み、自己を愛し、国を愛し、国際的視野で物事を判断出来る心豊かな人間教育を達成することを目指さなければなりません。その為の重点政策を上げるならば：

- 「自立と連携」「権利と義務」「自由と規律」の概念を再構築していく。
- 協調と連帯と責任感あふれる青少年の育成をはかる。
- 家庭教育の重要性を再確認し、自らの子育ての中で教育理念を確立し、実践する。
- 郷土を愛し、国を愛する心の教育を推進する。
- 学校教育を再点検し、ＰＴＡ活動等を通じて問題点を提起し、積極的に発言していく。
- 家庭教育・学校教育・社会教育の互いに調和のとれた教育プログラムの開発と実践に努める。

教育は国家百年の大計といわれています。今すぐ、戦後教育の影を払拭し、正常化することに努めなければ、国家の繁栄も国際協調もあり得ないのです。

30 ＪＣと文化

先人が豊かに育んできた文化的資質を、国際社会の中においてのびやかに展開し、日本人の文化的存在意義を広く世界に理解させ、伝統文化を継承発展させながら現在文化を創造していかなければなりません。それにより、明るく生き甲斐のある真に豊かな社会の実現を目指すことができます。その為の重点政策を挙げてみると：

- ＪＣ会員の文化意識の高揚をはかり、社会的・国家的・国際的レベルで文化事業を行う。
- 文化問題で、行政的にも提言出来る機能を持った組織の結成をはかる。
- 地域文化活動に対する権威ある評価機構を設置し、地方文化に誇りと自信を持てる心を育くむ。
- 地域の特性を生かした個性的文化活動推進の為、民間基盤の充実をはかる。
- 地域の伝統的文化を見直し、その継承・発展をはかる。

現在は、文化人のみが文化を語る時代ではありません。全国民が文化を語り、自ら創造実践してこそ更に活力に溢れ、世界中から真に理解される日本文化が形成されるのです。

31 ＪＣと国際活動

世界がより平和な状態で維持されること、その中で日本がかけがえのない国として認知されること ── これこそがわが国の存続と繁栄の道です。その国際協調・交流・相互理解の推進に最大限の努力を重ねていかなければなりません。その重点政策を上げてみると：

- 民間外交の担い手として、全世界の青年との交流に努めること。
- アジアにおける日本の役割を認識し、共に繁栄・生き残る道を見出すこと。
- 国際的な連携のもとに、難民・飢餓・貧困をはじめとする人道上の問題に取り組んでいく。
- 伝統・現在文化・情報の交流に力を入れ、自国の文化や歴史を誇り得る国際人を育成する。
- 歴史的な領土問題を正しく理解し、平和的解決を目指した運動を展開する。
- 国際会議・国際機関の日本への誘致、留学生・研修生の受け入れを推進する。
- ＪＣＩに積極的に参加し、姉妹ＪＣの提携により国際協調・交流に努めること。

われわれが国際人となるだけでなく、青少年からの国際人育成や地域の国際化のために、積極的にその政策を押し進めていかなければなりません。

STEP II

32 ＪＣと国際協力

「地球市民」を訴えた青年会議所は、91 年の国連「地球環境サミット」（UNCED）に公式 NGO（民間援助団体）として参加して以来、国際協力に非常に力を入れるようになってきました。

現在までの活動として、会員１人１日５円の負担を実施して、国際協力資金をつくり、フィリピンに井戸を設置したり、ソマリア難民の救援活動などを行ってきたりしました。そして、地区やブロックなどでは、「グローバルトレーニングスクール（GTS）」として会員が東南アジアへ行って、奉仕活動も行うなど幅広い国際協力、交流に使われてきています。また、世界各地で発生する甚大な災害に対し、支援を必要とした際には JCI の災害支援プログラムである「JCI オペレーションホープ」に積極的に参加協力を行うとともに、2009 年より国連（UN）共同運動である JCI Nothing But Nets キャンペーンを積極的に推進し、マラリアに苦しむ子供たちの命を救う運動を日本の全国各地で展開しています。

「貢献」の言葉の裏には、与える者と与えられる者が存在します。しかし JC では、"お互いに与えられる者" と受け止めています。なぜなら、「地球号」の一員として、基本理念の「地球市民」を再確認すれば、私たちの常識、倫理観、価値観が本当に正しいのかを活動を通して、彼らに教えられているからです。それが青年会議所の国際協力に対するスタンスなのです。

STEP II

33 ＪＣと環境運動

一部の環境団体に見られるような環境破壊につながる行為をすべて反対するといった運動ではなく、限りある貴重な資源を大切にし、最大限に活かしていく社会をつくる運動です。

２０００年代に入ると、エコノミーとエコロジーの融合が重要な問題となる「省資源環境型社会の創造」に目が向けられました。２０００年にＩＳＯ１４００１のＪＣ版ともいうべき「ＪＣ-ＥＭＳ」を作成したのを皮切りに、２００１年にはＩＳＯとも関連した「エコアクション２１」のプログラムを推進し、環境マネジメントシステムを構築する運動を展開しています。

STEP II

34 ＪＣと福祉問題

愛情と連帯に基づいた地球住民の自主的な福祉活動を育成・助成し、物や金の福祉以上に大切な心の福祉を考えると共に、今まで経験したことのない高齢化社会への到来に対して、われわれは活力ある社会の実現を達成しなければなりません。その為の重点政策を上げてみると：

- 現在の福祉制度の見直しを行う。
- 弱者救済福祉から、皆で共に生きる「生き甲斐福祉」への転換をはかっていく。
- 活力ある高齢化社会の実現の為、個々の自立・自助の精神を育成する。
- 民間の福祉活動と公的福祉政策を有機的に結びつける運動を推進する。
- 愛情と連帯に基づいた日本的家族主義と近隣の連帯意識の高揚をはかる。
- 障害者が障害を意識しないで暮らせる社会の実現に努めること。
- 職場が果たす福祉機能の推進をはかる。

真の福祉の充実・向上をはかる為には、個人の自立・自助の精神の教育を家族や地域社会の人々の愛情と連帯感を基盤に押し進め、共に生きる福祉、心をより豊かにする福祉を追求していくことが必要なのです。

JCI

NEW JAYCEE

ＪＣ運動と主な事業に関して

STEP III

35 ＪＣ活動とＪＣ運動

青年会議所では、「ＪＣ活動とＪＣ運動」を明確に区分しています。ＪＣ活動とは、個と組織の行動のことを示します。即ち、ＪＣ内部問題でのコンセンサスとアクションで、会社や地域への広がりを必要としない行動を示します。

一方、ＪＣ運動とは、組織体としての行動です。即ち、地域や社会を巻き込み、市民の先頭に立ってリーダーシップを発揮し、問題解決の為のアクションを押し進めることを指しています。従って、地域や国家に貢献する為に、場合によっては自己を犠牲にして立ち向かわなければならないこともあります。

明日の明るく豊かな社会を築く為に、個の開発と社会の開発を押し進めてきたことは、ＪＣの歴史の中で確証されています。一つの事業を検討する際に、われわれは何事もこうした視点から判断し、決定することが必要です。そして、その決定と行動には、青年としての英知と勇気と情熱を傾けなければなりません。

36 ２０１０年代運動指針

己を律し、行動するＪＡＹＣＥＥ

「自立」と「共助」が調和し、
「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が漲る社会へ

今を生きる君へ

私たちの国日本は、とても素敵な国になりました。
「まち」は活気にあふれ、「ひと」は元気に満ちています。

日本には資源がない…そんなことはありません。
この国には「ひと」という素晴らしい資源があったのです。
自らには厳しく、相手にはやさしさが溢れる、そんな「ひと」です。
「ひと」が生み出す様々な可能性が、今日という日を明るく照らしています。

国民一人ひとりが幸せについて考え、話し合い、行動を起こしています。
自分一人で生きているのではなく、社会に生かされているのだと感じています。
君たちが汗を流し、行動したからこそ素敵な今があるのです。
だから、自分を信じ挑み続けてください。

2020年の私より

【はじめに】

青年会議所は全国各地の個性や特性を活かしつつ、志を共有しベクトルを同じにして、今後も運動を展開していくことにより「明るい豊かな社会」を実現します。そのためにも国民の自立性や自助努力を大切にしつつ、国民同士が相互に助け合って生活できる基盤を確立することが重要です。そこで新たな時代のキーワードを「自立」と「共助」とし、定款に示す「全国的規模の運動を展開して、日本国民の利益の増進を図るとともに、国際青年会議所と協調して世界の繁栄と平和に寄与する」ために、青年らしく明るい夢を描き、論ずることのみに終わるのではなく、力強い「行動」を起こすための指針をここに掲げます。

1．「自立」と「共助」の調和

「自立」と「共助」。これは私たちが２０１０年代の青年会議所運動を通じて「明るい豊かな社会」を創造しようとする際の、問題解決の鍵であると捉えます。「自立」とは、国家における主権者として積極的に民主主義のプロセスに参画し、経済活動や環境の整備等を通じて社会的役割を果たす、即ち公共の担い手であることです。そして「共助」とは、様々なコミュニケーションを通じて互いが存在を認め合い、刺激し合い、競い合い、励まし合い、助け合い、共にたくましく「生き抜く」ことです。「自立」を前提としながらも「共助」の精神を大切にしていく、その様な考え方が社会全体に広がれば、必ずや「真の民主主義国家」実現への効果的なアプローチとなります。

II.「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が溢る社会の実現へ

不断の自己研鑽を通じ、能動的に社会参画をするとともに、新たな価値観を創出しながら社会に貢献していくことが何より重要です。その上で地域のあらゆる資源を有機的に結びつけ、全てのものに「生かされていることへの感謝」をし、地域に根差した公益活動を続けましょう。そしてこれらの活動を全国で昇華することで、より高い公益の創出をします。さらには、これら諸活動の展開に際し、常に世界を意識したグローバルな視野を持ち、世界の人々とのコミュニケーションを通じて相互理解を図ることにより、恒久的な世界平和に近づくことができるのです。

またこれまでのボランティアとは、体力と時間を提供することによる社会貢献でありましたが、今後私たちが取り組むべきは「プロボノ」の活用です。「プロボノ」とは、自ら兼ね備えたスキルを活用する手法であり、新たな時代の社会貢献活動、公益的価値観です。「自立」と「共助」が調和した理想社会を実現するために、青年会議所は地域やそれぞれの課題解決のために「プロボノ」の推進を図ると共に、市民が自ら「プロボノ」の精神を抱く社会を確立します。

個々人の努力が報われるとともに、お互いを支え合いながら、公共心といきいきとした活力とが溢れる社会、「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が溢る社会こそ、青年会議所が創造すべき「明るい豊かな社会」です。

※「プロボノ」…「良い公共のために」、「公共の利益のための無料奉仕」を意味し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献すること

III. 日本をつくる3つのかたちと政策ビジョン

（1）ひとのかたち

社会の中で一人ひとりにできることは溢れています。国民が意欲的に社会参画することが可能な社会を創造するために国民の意識を刺激し、これまで運動の主軸として取り組んできた人間力の向上を引き続き重要課題とします。「自らを律し、そして他がためへ」という精神、その様な純粋な正義感が溢れるひとづくり運動を展開します。

1．日本人としての「誇り」を未来へ伝承
2．たくましく生き抜く力の醸成
3．人間力溢れる人格の形成
4．地域のリーダーとアクティブ・シチズン（行動する市民）の育成

（2）まちのかたち

地域の信頼や規範から成り立つ人間関係のつながりと、あらゆる地域資源の有機的な結びつきを基軸にして新たに生まれた多面的ネットワーク、そして地域に根差した持続的な社会貢献によって「まち」の活性化を進めます。地域力再生の鍵は地域全体を見渡せる目線にあり、地域経済の担い手である中小企業の再興が地域の自立には欠かせません。地域経済を強化し、市民が主体的に地域に関わり自立した「まち」が、地域間や市民相互で日常的に助け合うことができる成熟した社会を目指します。

1．多面的ネットワークの構築による地域コミュニティの再生
2．利他の精神に基づく地域企業の育成と地域経済の振興
3．地域力再生の鍵となる「地域全体最適化」を目指すまちづくり

（3）くにのかたち

国家としての自立へ向けた運動を今後も積極果敢に行うとともに、アジアを牽引する日本、そして世界平和に貢献する日本を見据え、あらゆる喫緊の課題を「自分の問題」と捉えます。その上で日本のあるべき姿や国際貢献を学び、世界情勢を踏まえ国際的に通用する人材を育成するとともに、国際社会の発展に積極的に寄与します。

1．国民の意識を刺激し、世論喚起を促す運動の発信
2．一人ひとりの主体的な貢献による自立した国家の創造
3．世界の人々と相互理解を図り、国家の発展に寄与
4．グローバルな視野を持って、国際貢献を行い国際発展に寄与

【むすびに】己を律し、行動するJAYCEE

青年会議所が目的を同じくして発信する運動は、瞬く間に全国へ伝播する可能性を有しています。混沌という未知の可能性を切り拓き、各地域の独自性を高めつつスケールメリットを活かした運動を力強く展開して、国民の意識を、そして時代を変革しましょう。私たち青年が、誇りに満ち、希望溢れる未来を大胆に描き、その実現へ向けて常に行動しなければなりません。

激動の時代の中、全人類の光明たる私たち青年が己を律することで自らを磨き、純粋な正義感と揺るぎない信念を携えて青年会議所運動を展開することが、常に時代に頼られる存在としてあり続けることなのです。青年の英知と勇気を結集させた運動を実践に移すこと、情熱溢れる行動を力強く展開することこそが我々の責務なのです。

新日本の再建を夢に描き起ちあがった先達の、創始の気概を胸に。

37 日本青年会議所の主な大会

● 京都会議

日本ＪＣが毎年１月に、京都国際会議場で行う会議のこと。年度の事業計画・事業引継ぎ等が行われる。

● サマーコンファレンス

毎年７月に日本ＪＣが京都会議で年度の運動を発信した後の、その年の事業の成果を発表し提言する集大成の場である。１９６６年（昭和４１年）から国家問題会議、青年経済人会議を発展させた会議でもある。

● 全国会員大会

全国会員大会は、日本ＪＣが毎年１回開催する大会で、日本ＪＣでもっとも重要な大会である。開催地は毎年異なり、年に一度全国からメンバーが集まってくる。総会・理事会等諸会議・セミナー・記念事業等々がプログラムされており、年度活動集大成の場であると同時に、会員相互の意見交換の場でもある。第１回全国会員大会は、１９５３年名古屋で開催された。

● 地区会員大会

北海道地区から沖縄地区まで１０地区に分かれている。それぞれの地区協議会主催で年一回開催する大会である。

● ブロック会員大会

北海道ブロックから沖縄ブロック（北海道を除き、１ブロックは１都道府県単位）まで４７ブロックに分かれている。その４７ブロック内で、それぞれ毎年開催地を変えて年１回開催する大会である。

38 ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動

日本青年会議所では、２００５年度より世界共通の道徳観の必要性を訴え、「ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動」を発信しています。殺戮、貧困、環境破壊などの問題は待ったなしの状況となっています。これらの解決の糸口として大切なのは、人類が利他と調和の精神である「ＯＭＯＩＹＡＲＩの心」を共通の価値観として持つことだと考えます。理解と信頼、対話によって諸問題を解決し、武力によらない真の世界平和を実現するのです。

身近な人に対する配慮は当然の事です。また、企業等の組織の中でメンバーに対する心配りも重要な「ＯＭＯＩＹＡＲＩ」です。さらには、地域においても、「ＯＭＯＩＹＡＲＩ」を発揮する機会は多いでしょう。

国家間の信頼構築には、それぞれの違いを理解し受け入れていく事が大切であり、国連では「国連ミレニアム開発目標」として、２０１５年までに解決するべき課題について取り組組んでいます。前述したように、ＪＣ゛メンバーでもある我々は、」ＣＩという組織に所属しており、世界中で同じ理念のもとに活動しています。

２０代から３０代は最も行動力ある世代であり、その我々が率先して行動することは、全世界に大きな影響を与えると確信しています。ＪＣＩやＮＯＭが「ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動」を進めることは重要であり、この運動をさらに効果的に世界に広げていくためには、地域に密着しているＬＯＭの活動が必要不可欠なのです。すなわちＬＯＭが独自の発想で「ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動」を展開していくことが、真の世界平和の実現につながると確信します。

39 OTONANOSENAKA運動

OTONANOSENAKA運動概念

ことわざに「子は親の背中を見て育つ」という言葉があります。青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」、「世界平和への貢献」をその理念・目的とし戦後五十年以上にわたって「ひとづくり」や「まちづくり」といった様々な運動を行ってきています。すなわち、私たちＪａｙｃｅｅは市民に事業や活動だけではなく「ＳＥＮＡＫＡ」を見られていることに他なりません。また、それぞれの職場や事業所ではリーダーシップを発揮する立場にあるわけです。ということは、私たちは仕事においても「ＳＥＮＡＫＡ」を見られています。私たちにはＪａｙｃｅｅとしての誇りと気概があります。自分の背中に「ＯＴＯＮＡ」の自信を持って堂々と思いを伝え行動することができれば、私たちの「ＳＥＮＡＫＡ」を通じてさらにＪＣの理念が市民に深く浸透することができる。だからこそ、常に自分の背中を意識して行動する。これが「ＯＴＯＮＡＮＯＳＥＮＡＫＡ」という運動です。

子どもや家族・地域のみなさまに見られていることを常に自覚して、自分を律しながら行動することを考えましょう。

■ 食べ残しをしないようにしましょう

ＪＣでの宴会でよくみられる光景で、非常にたくさんの料理が残っていることが多いです。世界には食べ物も十分にとれない子どもがたくさんいます、もったいないという気持ちで取り組みましょう。

■ マイ箸を持とう

懇親会で何気なく使っている割り箸は日本だけでも年間２４０億本といわれています。環境問題に大きくかかわっているＪＣだからこそ、マイ箸を持つことにより単なる環境対策だけではなく、個々の意識改革につながります。

■ 家族との約束を守りましょう

高校生の７割は大人の行動に理不尽さを感じているというデータがあるようです。「言行が一致しない」「大人がマナー違反しているところを見たことがある」どんな些細な約束でも守ってください、子どもからすると、とても大事なものです。大切にしましょう。

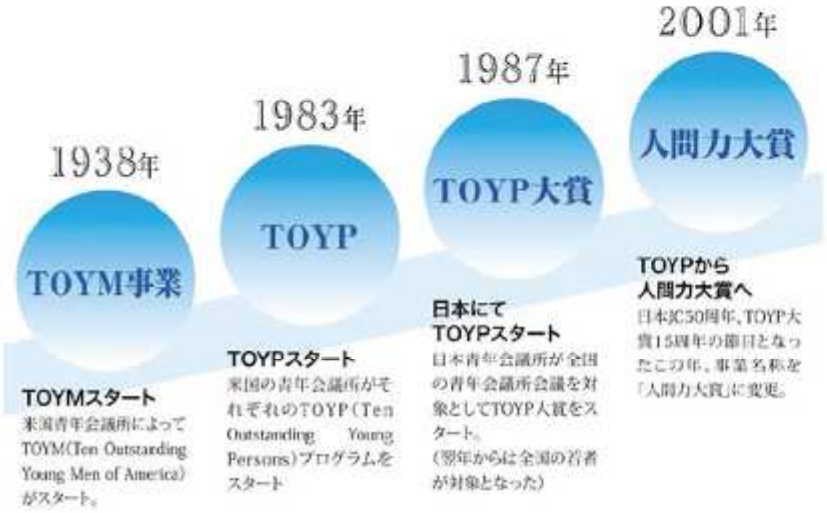
■ マナーを守りましょう

マナーとは、意味だけを捉えると「態度」・「礼儀」・「礼儀作法」などとされています。マナーは法律ではありませんが、社会生活を営む上で知って守らなくては、人の模範とはなれません。

◎OTONANOSENAKA運動の効果について

1．当たり前のことが出来ているかどうかの再認識
2．ＪＣメンバーの家庭や地域に向けた食育への姿勢が確立される
3．利用するホテルや料理店、そこに来店するお客様たちに好印象が生まれる
4．市民からＪａｙｃｅｅが評価されることでＪＣ運動の説得力が増す

40 人間力大賞



「人間力大賞」は、環境、国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ、その他の分野で積極果敢な活動・挑戦を続けている人間力あふれる若者を発掘し、さらなる活躍を期待して国民全体で応援しようとする対象であり、日本ＪＣでは「青年版国民栄誉賞」を目指して継続している事業の一つです。

人間力大賞の起源は、米国青年会議所ダーウィッド・ホウズ会頭（1930-31 年）によって提唱された趣旨にのっとり、１９３８年に創設された、ＴＯＹＭ事業（Ten Outstanding Young Men of America　10 人の傑出したアメリカの若者たち）です。

ＪＣＩでは、１９８３年からＴＯＹＰ(Ten Outstanding Young Persons　10 人の傑出した若者たち）とする主要事業として始まり、現在は、TOYP (The Outstanding Young Persons　傑出した若者たち）として継承されています。これまでのＴＯＹＰ大賞受賞者には、オーソン・ウエルズ、ジョン・Ｆ・ケネディー、ヘンリー・キッシンジャー、ベニグノ・アキノなど、多数の著名人も含まれています。

日本青年会議所では１９８７年にＴＯＹＰ大賞をスタートさせました。また、日本ＪＣ５０周年、ＴＯＹＰ大賞１５周年の節目となった２００１年からは事業名称を「人間力大賞」（青年版国民栄誉賞）とし、ＪＣ運動の機軸である「人間力開発」を根底とし、ＪＣのブランディングツールとしての構築も目指しています。

41 ＪＣ褒賞制度

褒賞とは、青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その栄誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会として、関わるすべての人に自信や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的にしています。

例年は全国会員大会において、アワードジャパンセレモニーを開催し、受賞された会員会議所を発表することで、より多くの全国のメンバーと情報を共有し、広く発信しています。

現在では、エントリーしていただいた全ての事業を「褒賞デジタルアーカイブ」と称して、ＷＥＢ上に保管しており、インターネットを通じて閲覧できるようにしています。この「褒賞デジタルアーカイブ」は、２００３年より導入しており、それ以降の全ての事業が保管されている貴重な電子書庫であり、是非ＬＯＭの事業構築に活用ください。

また、この制度は国際青年会議所にもあり、エントリーをすることができ、ＪＣＩ世界会議やＪＣＩアジア・太平洋地域会議（ＡＳＰＡＣ）でアワードセレモニーが行われ、発表されます。

42 ＪＣＩ　トレーニング

ＪＣＩでは世界中のトレーナー仲間とその知識を交換し、青年会議所会員すべての会員に役立つトレーナーのスキルアップシステムを提供し、質の高いトレーニングを届ける事も活動の一つとしています。さらにトレーナーをより優れた方向に導くために、トレーナーのレベルを設定し、各レベルに認証プログラムを提供しています。

トレーナーの入門編として、「何のためのプレゼンか?」「実際に話す際の技法は?」など、プレゼンテーションに関することを中心に行う「ＪＣＩプレゼンター」があり、次のステップとしては「ＪＣＩトレーナー」として、「大人が自ら学ぼうとするモチベーションは?」「身につく学びを生みだすしくみは?」などを他の参加者とチームを組み、体験しながら行う研修となっています。

それらを履修すると、「ＪＣＩトレーナー」という資格を得られ、さらにその後、ＬＯＭなどの研修においてアシスタント活動を行うと「CLT（Certified Local Trainer）」という資格を得られ、トレーナーとして独り立ちできるようになります。その後にも「CNT（Certified National Trainer）」「NG（National Graduate）」や「ITF（International Training Fellow）」などの資格を取得することができます。

自らのスキルを高めるために、これらのプログラムを受講されることをお勧めします。

43 ＪＣと世論（市民討議会）

現在行政が市民参画の施策はどうしても任意の参加者が多くなってしまい、社会の中に存在するサイレントマジョリティーと呼ばれる多数の潜在的な声を吸い上げきれていないという懸念が生まれてしまいます。そこで本来の地方自治の在るべき姿である「自分たちの地域のことは自分たちで解決する」ことを実現するために「討議民主主義」に着目した事業としてドイツのブラーヌンクスツェレを参考に、２００５年東京都千代田区で初めて青年会議所の事業として「市民討議会」は誕生いたしました。「市民討議会」の大きな特徴としては、下記の５点があげられます。

「参加者の無作為抽出」、「参加者への謝礼の支払い」、「少人数によるグループ討議（５人程度）」、「公平・公正な運営期間」、「報告書公表」

地方自治とは団体自治と住民自治（市民自治）の両輪がきちっと歯車が合ってまわっている社会システムのことです。「市民討議会」は社会システムを構築するための一つの効果的なツールなのです。

44 ＪＣと憲法問題

日本ＪＣは、２００５年より憲法問題に取り組んできました。２００５年から２００６年にかけて「日本国憲法」Ｃ草案」を作成し、特に前文においては「日本国の成り立ち、日本国の歴史と伝統、日本人としての精神性、国際社会における日本国の使命」について日本ＪＣが独自に研究した結果を盛り込んだものとなりました。この草案については、一部の専門家や政治家から高い評価を受けました。

２００７年からは「憲法改正運動実践マニュアル」を作成して全ＬＯＭに配布するとともに、２００８年からは、各ブロック協議会において憲法タウンミーティングを開催しています。「憲法論点冊子」を作成し、タウンミーティング全参加者に配布し、それによって現行憲法の問題点を多くの人に伝えています。２００９年と２０１０年には５月３日の憲法記念日に全都道府県において全国一斉憲法タウンミーティングと称して、全国一斉に開催しています。我が国が立憲主義国家であり、日本国独自で制定する自主憲法制定に向けて、理想とする国家・国民の在り方を考える上で、あるべき憲法とは何かなどを争点にして継続して開催しています。国民の憲法の理解と関心が低いという状況を打破し、国民間において「我が国に相応しい憲法」について議論ができるようにするために、地域に根差したタウンミーティングや憲法セミナーなどを開催しましょう。

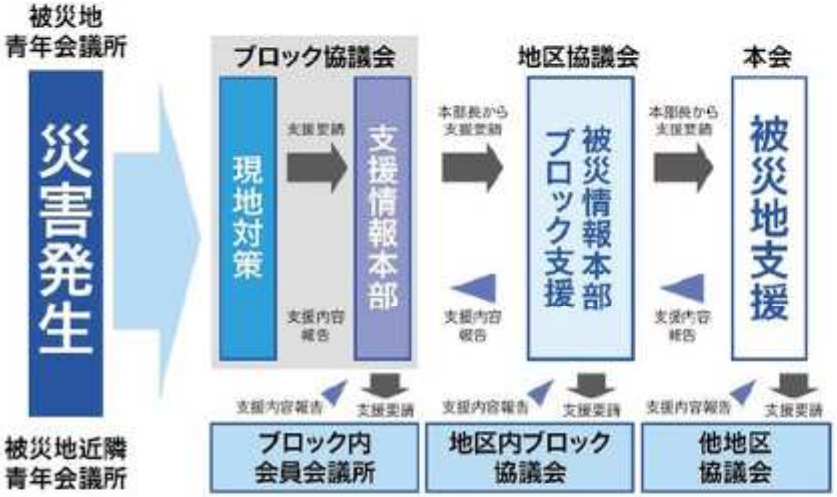
45 ＪＣと選挙（公開討論会）

明るい豊かな社会の実現のために、国民の政治に対する無関心や無責任を払拭し、一人ひとりが人任せの考えから脱皮すると共に、主体的に政治に参加できるようなシステムの構築を実現させる第一歩が「公開討論会」であると考えています。公開討論会は、政党に関係なく、立候補予定者に本音で政策を語って頂き、有権者に投票する判断材料を提供すると共に、市民にとって政治をより身近なものとする機会です。主権者である市民が政策に基づき主権を行使することで、主体的に地域づくりに携わり、市民と行政が協働してより良い地域を作り上げていく事に繋がっていきます。

毎年、多くの選挙が開催され、全国各地で公開討論会が開催されるようになってきていますが、その開催の９０％以上にＪＣが関与しています。日本の選挙の在り方を変えたといっても、過言ではありません。候補者の所信や公開討論会をインターネット経由で発信する等、情報発信力を強化していることにより、この事業の価値はますます高まると思われます。

46 ＪＣと災害復旧活動

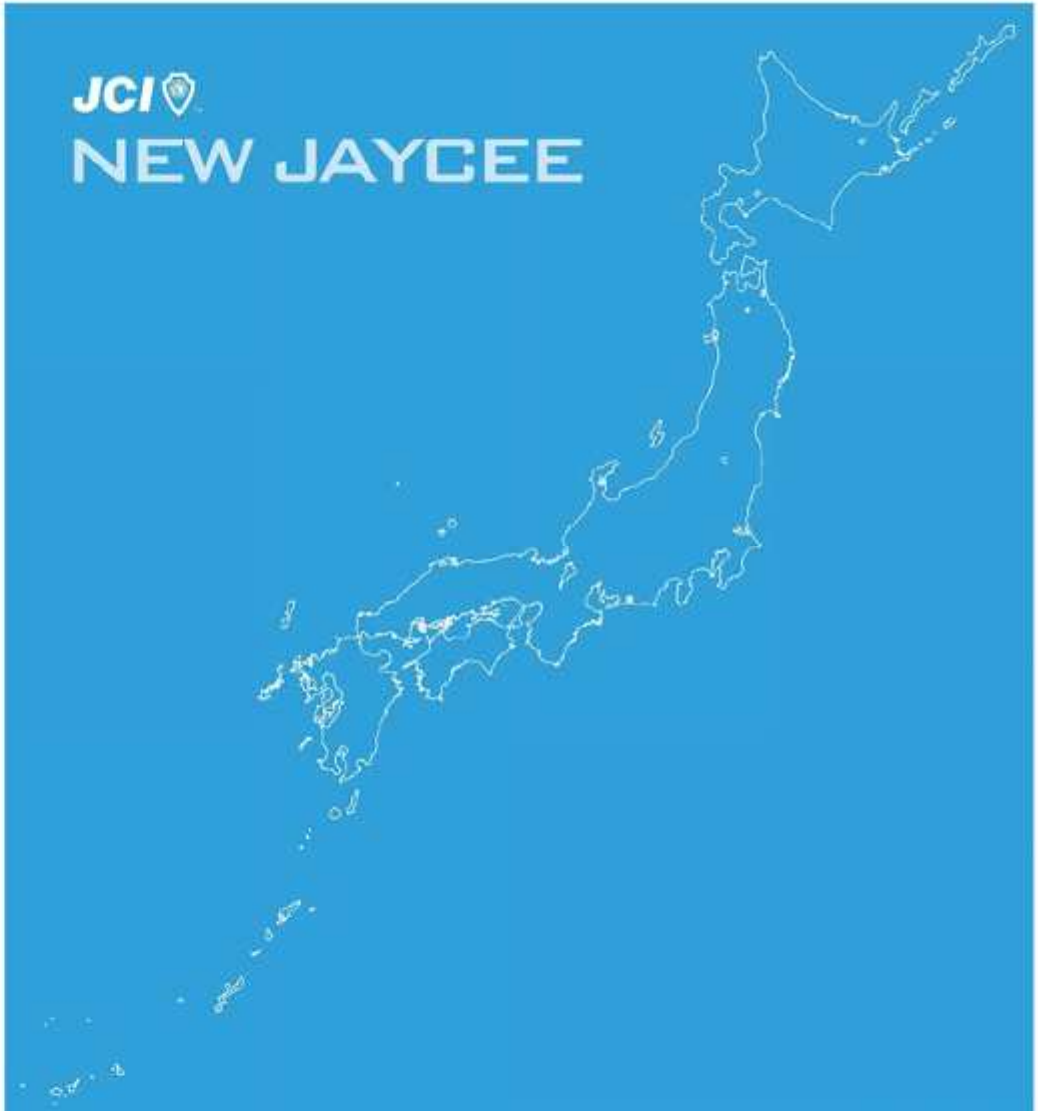
災害時における救援相互運営規定に準ずる支援体制図



様々な自然災害が起きる我が国において、ピンポイントの局所的な豪雨や、東海・南海地震と言われる大規模災害の発生が懸念されています。

青年会議所は、有事の時には地域のリーダーとして組織的に活動することで、被災地住民の生活を復旧し、生活支援、経済支援を手助けすることで、安定した社会、地域の自主自立に繋げるとともに、地域から頼られるＪＣの確立にも寄与出来ます。そのためには災害時における救援相互運営規程を制定し、ブロック協議会主体による災害発生時における被災地・被災者の復旧、復興の支援体制が構築されています。ですが、災害発生の対応経験の有無によって、地域間格差や意識差がある為に、全国的な共通認識・共通理解が乏しいのと同時に十分な備えができていません。災害の種類や災害発生時の問題点等を事前に学び、災害に対する知識と意識を向上させ、また被災地で求められる対応等をシミュレーション出来るプログラムがありますので活用をしましょう。

JCI
NEW JAYCEE



その他

STEP IV

STEP Ⅳ

47 責任ある言動と行動を

一人ひとりの言動・行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることに繋がることは会員としてのマナーの項で記載していますが、青年会議所運動を進める時、一人ひとりがＪＣの代表者であることを忘れてはなりません。

無責任な発言や他会員への中傷、品位のない服装や行動は絶対に慎むべきことであり、地域社会や他の団体・市民から好意をもって迎えられるものでなければなりません。

でなければ、どんなに理想に燃えても、コミュニティに根を下ろすことは極めて難しいでしょう。また、同士間においても全く同様であり、信頼を欠く言動・行動をとることは、最終的に自分自身にとってマイナスになることを認識すべきです。

ＪＣの会員は、そうした意味での真の「紳士」であらねばならないのです。

STEP Ⅳ

48 積極的自己ＰＲを

共通のゴールを目指す若い人達の自然な同志感は、ＪＣ会員になって得られる素晴しい報酬の一つです。通常、同級生とか小さな地域社会・同業者の付き合いなど、比較的交際範囲が限られているが、われわれの場合、同じバッチをつけているということだけで全く知らない者同士でも旧知の如く話合いが出来ます。そして、ＪＣの未来の可能性を論じ合う中から新たな友情が育まれてきます。しかも、ＪＣにおける友情の一つの特徴は、地位や財力等によるハンディキャップがないことなのです。また、ＪＣの多様な活動の過程で、社会の様々な機関や団体等の素晴らしい人々と面識を得たり、対談したりする機会にも恵まれています。

要するに、ＪＣとは、「人との出会いの場」でもある訳です。こうした機会に、会員は積極的に自己のＰＲをしなければなりません。そのＰＲとは初対面の場合、同志であろうと外部団体の方であろうと必ず《自分の名刺》を渡すということです。新入会員は、特に名刺交換を習慣づけて欲しいものである。

STEP Ⅳ

49 自主的な参加を

ＪＣに入会した時の目的は、自分の住む街を理想的なコミュニティに創り上げようという望みであったり、自己の啓発や交友の輪を広げるといった願望であったりだと思います。その為には先ず、全てのＪＣの会合や事業に自主的に参加することから始まります。総会や例会は、後で親友になるであろう同志に会える場所であり、ＪＣの活動全体にわたる報告や意見が述べられ、その総合的調整や検討、あるいは反省がなされます。時には、講師を招いて諸問題について勉強し、討論することもあるかもしれません。

また、数ある委員会の中のどれかに所属し、委員として専門的活動をすることになります。新入会員にとっては、委員会活動はまさにトレーニングの場、積極的に参加することが肝要です。そして、会員としての自覚が醸成され、斬新なアイディアと責任ある行動によって、次代の青年会議所活動が支えられていくのです。青年会議所運動の原動は、あなたの「自主的参加」なのです。

STEP Ⅳ

50 ＪＣ会員としてのマナー

一人ひとりの言動や行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることに繋がることから、会員としてのマナーを厳守しなければなりません。

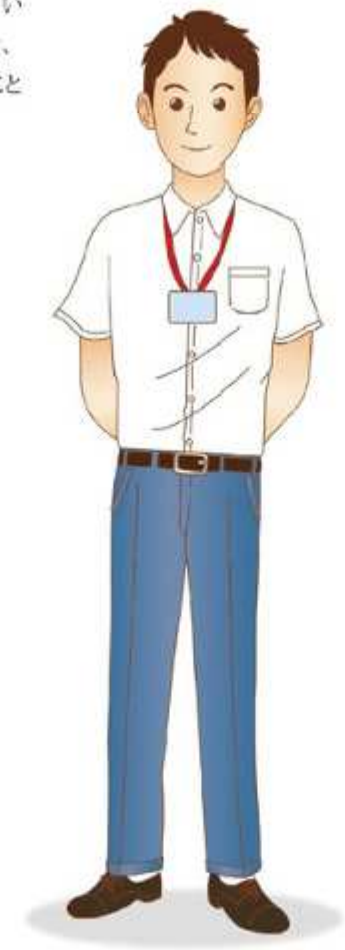
- 品格ある青年として行動し、会員同士では笑顔で握手する。
- 常に礼儀正しい服装をし、必ずバッジをつける。
- 常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
- 常に他人の話をよく聞き、その権利を尊重する。
- 諸通知の出欠は、すみやかに必ず返信を出す。尚、出欠の変更または遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
- 諸会合には定刻に出席し、時間の無駄遣いをしない。
- 発言する時は、挙手をして上衣のボタンをかけ、所属及び氏名を明確に述べる。
- 諸会合では、私語・雑談を慎む。
- 先輩には敬意を示し、挨拶をするのと同時に名刺を交換する。

51 ＪＣカジュアル

ＪＣカジュアル

ドレスコードをＪＣカジュアルとするのは、国家政策として環境省が推進している 28℃の冷房でも涼しく効果的に働くことができる、「夏の軽装（クールビズ）」に呼応して、持続可能な社会を実現していく起点とする為です。この目的をご理解いただき、参加する上で最低限の品位を保った服装とすることにご留意ください。

シャツ：襟付きシャツ 着用
（シャツはズボン等に入れる）
ズボン：ジャージ・ジーンズ・短パン 不可
靴　：サンダル 不可



52 会議の必要性と種類

効果的な会議を行う為、あるいはより良い結論を出す為、または知識を得る為の会議を行うには、その会議をよく理解し、目的に合った会議の開き方をすることが大切である。会議は、概ね次の三つに分けることが出来るので参考にされたい。

①問題解決型会議

この会議では妥協なく、必ず納得の上での結論を出さなければならない。

●ロバート議事法　　**●ＫＪ法**

②情報交換型会議

この会議は必ずしも結論を求めるではなく、情報の提供・意見の交換を主目的としている。

●バズセッション　　**●フィリップ６６**

③知識吸収型会議

講演会は聞くだけのものであるが、これに自分の意見を発表、質問を投げかけることによって疑問を解いていく形式の会議がある。この種の会議をここでは指している。

●パネルディスカッション　　**●シンポジウム**　　**●コロッキー**

53 議事録作成の心得

メンバーの仕事の一つに会議の議事録をとることがある。議事録は、記録の保存という事と合わせてメンバーの意思統一の証しとして非常に需要なものである。そこで、作成にあたって作成者は、発言者が何を言わんとしているかを集約することを心掛けねばならない。

■ 議事録作成者の心得

- 問題解決型・情報交換型・知識吸収型かの会議の性格をよく理解する。
- 現状認識の問題提起か。
- 価値判断基準の意見か。
- 下書き用紙、筆記用具、テープレコーダーとテープを用意する。
- 下書きを3日以内にまとめ上げる。
- 標準として、2時間の会議で1千～2千字に集約する。
- 基本フォントは、明朝体とする。
- 発言者名を必ず発言内容と一緒に記録する。

■ 議事録のフォームについて

- 会議名
- 場所及び日時
- 出席者及び欠席者
- 議長及び議事録作成人並びに議事録署名人
- 議題（進行順）
- 決定事項
- 連絡及び配布先

54 効果的な話し方

■ 心掛けたい態度

- 足 —— 多少開いた安定した位置に。
- 手 —— 身体の前で自然に組むか、拳を軽く握り、身体の両側に下げる。
- 顔 —— 目つきは活き活きと油断なく。
- 服装 —— きちんとした服装で。
- 姿勢 —— ゆったりとした気持ちで、熱心に話しかけているような印象を。

■ スピーチの組立て順序

- 話題を決めること。（5つの原則＝目的・聞き手・時・場所・立場）
- 聞き手の興味は何か。（どこにポイントを置くか）
- 話しの組立ては、「導入→展開→終結」の三つに分け、3分間スピーチでは、それを「30秒→2分→30秒」に振り分けるのが理想である。

■ スピーチに際しての用意

- 短い文章で、まずスピーチの内容を全部書く。
- 話しの組立て・順序に、注意しながら並べ直す。
- 清書し、5～6回注意深くチェックする。
- 書いた原稿は破って捨てる。
- スピーチの準備は自分自身でやる。
- スピーチの内容は丸暗記をしてはならない。
- 鏡の前で、声を出して練習する。

■ 効果的なスピーチの実践

- わかり易い言葉を、歯切れよく明確に使う。
- 間の取り方を利用して、相手に言葉の持つ意味の深さを訴える。
- 自然にそしてわかり易く、ジェスチャーを交える。

55 ＪＣ用語・単語

組織用語

❶ＪＣ

ＪＵＮＩＯＲ　ＣＨＡＭＢＥＲの頭文字をとったもので組織としての青年会議所の意。

❷ＪＡＹＣＥＥ（Jayceeでも可）

青年会議所会員個々人のこと。（注：但し、この使い分けは、英語圏のＮＯＭではそれ程、厳密ではない。）

❸ＪＣＩ

ＪＵＮＩＯＲ　ＣＨＡＭＢＥＲ　ＩＮＴＥＲＮＡＴＩＯＮＡＬの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズリー州セントルイスにある。

❹ＮＯＭ（ノム）

ＮＡＴＩＯＮＡＬ　ＯＲＧＡＮＩＺＡＴＩＯＮ　ＭＥＭＢＥＲの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。例えば、日本青年会議所は、国際青年会議所の中の１ＮＯＭ（国際青年会議所）である。

❺ＬＯＭ（ロム）

ＬＯＣＡＬ　ＯＲＧＡＮＩＺＡＴＩＯＮ　ＭＥＭＢＥＲの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地会員会議所の意。現在、日本青年会議所の中には７０４ＬＯＭ（各地会員会議所）がある。（２０１１年１月）

❻地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック及び各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告や連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所は１０区分されており、１０の地区会員会議所があり、主な事業としては、各地区委員大会の主催がある。

※ＤＯＭといった表記が一部使われていますが、誤りです。

❼ブロック協議会

日本青年会議所及び地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所及び地区協議会に報告連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所には４７ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

※ＢＯＭといった表記が一部使われていますが、誤りです。

❽ＪＣデー

日本において最初に青年会議所運動が開始された１９４９年９月３日を記念して、毎年９月３日をＪＣデーと称している。

アクティブシチズンデー

毎年１２月１１日には、ＪＣＩ本部において、本年度と次年度ＪＣＩ会頭出身国の国旗が入れ替わる日となっており、２０１０年の世界会議大阪大会において、正式にその日の名称が決められた。なお、このアクティブシチズンとは、行動する行動する市民と訳することができ、日本ＪＣの会員のＪＣ活動こそがＪＡＹＣＥＥとしてあるべき姿と考えられて、日本ＪＣのメンバーの事を示すとも言われている。

❾認承証伝達式

新規に設立を承認されたＪＣに対し、日本ＪＣからその承認証が正式に伝達される時の式典である。

❿スポンサーＪＣ

青年会議所未設立の地域の青年有志に働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

⓫シスターＪＣ

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に所属する青年会議所の相互間の親善と友好の為に、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のことで、姉妹ＪＣともいう。

⓬世界会議（ワールドコングレス）

国際青年会議所が主催する年１回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与・翌年度の開催地の決定などが行われるＪＣＩの最高の意志決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバンケットなどがプログラムされている。第１回ＪＣＩ世界会議は１９４６年パナマで開催された。

⓭エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟ＮＯＭを地域別に４つにわけている。アフリカ・中近東地域（旧エリアＡ）、アジア・オセアニア地域（旧エリアＢ）、南北アメリカ地域（旧エリアＣ）、ヨーロッパ地域（旧エリアＤ）の各地域で年１回５月から６月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ＡＳＰＡＣ（アジア太平洋地域コンファレンス－ＡＳＩＡ　ＰＡＣＩＦＩＣ　ＡＲＥＡ　ＣＯＮＦＥＲＥＮＣＥ）という名で親しまれている。

⓮直前会頭・直前理事長

単年制度をとっているＪＣでは、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、ＬＯＭの前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑬日本ＪＣシニアクラブ

日本ＪＣシニアクラブは、ＪＣ卒業生同窓会として相互の親睦を図るとともに、現役活動を陰ながら援助しようという目的で１９６０年に設立された。ＪＣ卒業生なら誰でも入会出来る。

⑭セネター制度(SENATOR)

ＪＣ終身名誉会員制度のことで、ＪＣＩ運動に多大なる貢献をしたメンバーをＬＯＭが承認・推薦し、ＮＯＭ及びＪＣＩの承認を得てその資格(終身番号)が与えられる。
与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑮出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出ていくメンバーのこと。

⑯「WE　BELIEVE」

日本ＪＣは、対外的・対内的な広報活動の強化と、拡充を図るために、月刊誌「ＷＥ ＢＥＬＩＥＶＥ」(毎月１回１５日発行、Ａ４判)を全会員に配布している。

⑰セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑱シンポジウム

語源はギリシャ語といわれ親しい者同志がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われないが、各報告に対する質問は許される。

会議用語

⑲パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会議である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

⑳コロッキー

パネルディスカッションと同様の形式による会議法で、途中専門家が追加出席して意見を述べ、討論が一方的な方向へ行かない様にコントロール出来る。

㉑バズセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバズセッションという。

㉒ブレーンストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイディアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。(集団的創造力開発の方法)

㉓フィリップ６６方式

バズ形式に似たもので、多人数の場合小グループ(６人)に分け、６分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。６６式討議ともいう。

㉔ＫＪ法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査に関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後に、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

㉕ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「不在者の権利」の４つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不再議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の４つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

㉖コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約、調整し、会議を進行させる担当者。

㉗アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させる為に助言を行う講師のこと。

㉘パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

事業・運営用語

㉘CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

㉙LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

㉚MD

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

㉛LIA

リーダーシップ・イン・アクションの略で、ＬＤが発展拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで、実践指導力開発と邦訳されている。１９６８年のマルデルプラタ世界会議でＪＣＩ恒久プログラムに採択された。

㉜HD

ヒューマン・ディベロップメントの略で、人間力開発のこと。

㉝AOY

アクセント・オン・ユースの略で、青少年開発のこと。その地域社会に住む青年を参加させて、地域社会の開発の為により良き道を見出すよう青年達を助ける方法を提供するプログラムである。１９７０年にダブリン世界会議でＪＣＩ恒久プログラムに採択された。

㉞三分間スピーチ

ＬＤ手法の一つで、電話一通話の時間内即ち三分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させる方法。

㉟FC構想

フューチャークラブ構想の略で、青少年が手をつなぐ運動のこと。地域社会にある既存の青少年グループ、会員自身の子弟、会員の経営する企業内の勤労青年などを始動団体として、明日の日本の為の広場づくりを進める働きかけのことである。

㊱カテゴリー

本来の意味は、同一性のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

㊲チャーターメンバー

各地青年会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

㊳スリーピングメンバー

資格を持ち、活動が義務づけられているにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員のこと。

㊴アクティブメンバー

スリーピングメンバーの反対の意。全体の中の個人・個人であっての集団であることの自覚を持ち、そして責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員のこと。

㊵ガイダンスメンバー

オリエンテーション、委員会等でガイダンス勉強期間中の新入会員の呼称。

㊶アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。そして出席の証しをアテンダンスカードと呼ぶ。

㊷エントリー

褒賞獲得や、又は大会誘致等々の為に立候補申請することをいう。または出向者の推薦及び登録のことをさす。

㊸アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

㊹マニュアル

手引き書のことで、日本ＪＣには組織に関するもの、運営に関するもの、事業に関するもの等多くのマニュアルを持っている。

㊺人間力大賞（旧TOYP大賞）

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方を持ちそれを実践し、まちの地球市民として活動を続けている将来性のある若者（ＴＯＹＰ＝傑出した若者）の功績を讃え、その運動を広く紹介するとともに、そこから学ぶことを目的としている。

㊻褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その栄誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に自信や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。

㊼プロボノ

ラテン語の Pro Bono Publico（良い公共のために）を略した言葉。JCにおいては「公共の利益のためのスキル提供による無料奉仕」と定義し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献することを意味する。

関連団体

㊽まちづくり市民財団

市民が主体的に行うまちづくり運動の研究、提案、助成を行い地域の発展に寄与することを目的に設立された。

㊾地球市民財団

開発途上国の自然災害、住民の福祉、教育に対し助成を行い、地球社会の発展と平和に寄与することを目的に設立された。

56 ＬＯＭの素顔

※研修もしくはアカデミースタッフの方は、下記の情報を事前に調べ、セミナー中に、新入会員に記載させるようにしてください。

□名　　称

□活　動　地　域

□ブ　ロ　ッ　ク

□地　　区

□事務局所在地

□電　　話

□創　立　年　月　日

□承　認　年　月　日

□認　承　番　号

□法人認可年月日

□スポンサーＪＣ

□会　　員　　数

□ＯＢ会員数

□平　均　年　令

□シスターＪＣ

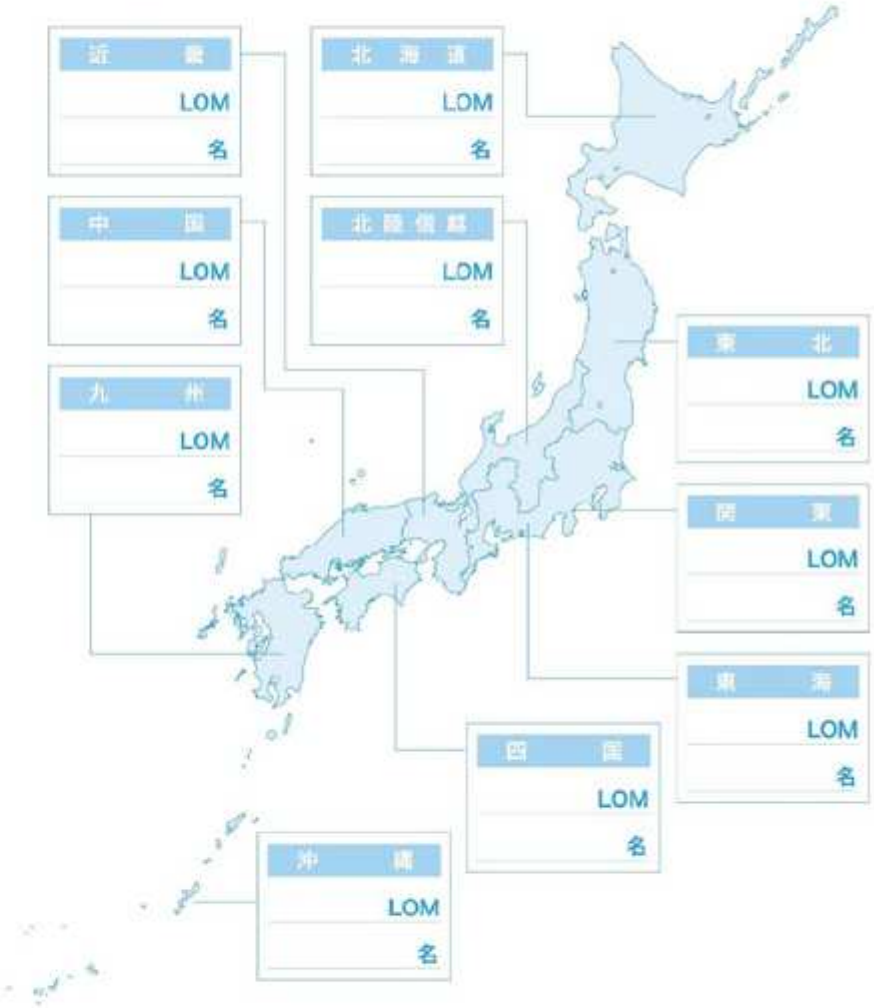
ＪＣ名　　登　録　No

国　名　　調印年月日

□友好ＪＣなど

57 日本ＪＣ現勢図

(注) 毎年度の実数は毎年配布される日本ＪＣ基本資料より抜粋し記入すること。



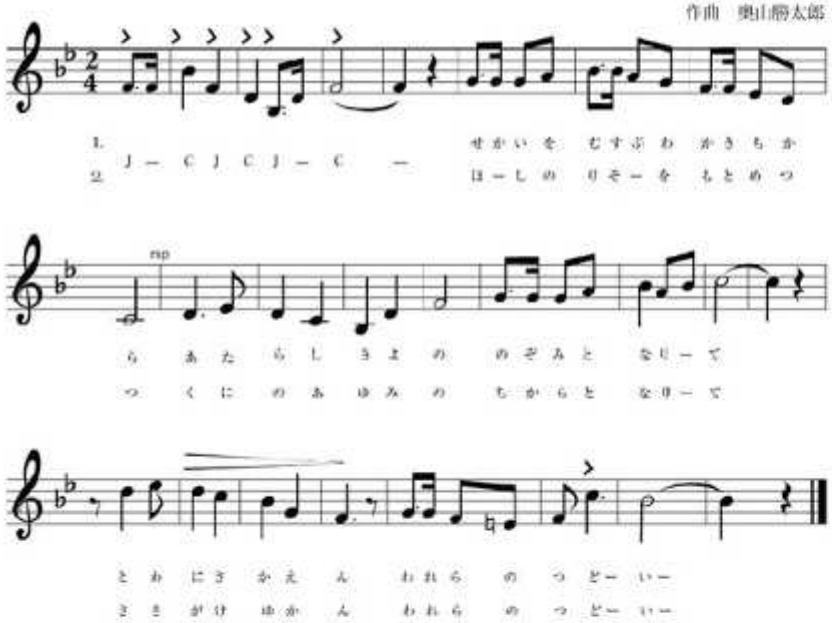
計	LOM	名

(　年　月　日現在)

JC SONG

※1954年9月、ＪＣの歌として初めて誕生しました。岡山ＪＣの松田基君の作詞に、同じく岡山ＪＣの奥山勝太郎君が作曲されました。
短い歌ではあるがＪＣの意欲をかきたてる歌として、例会の始めなどに愛唱されている。

作詞　松田　基
作曲　奥山勝太郎



ＪＣソング

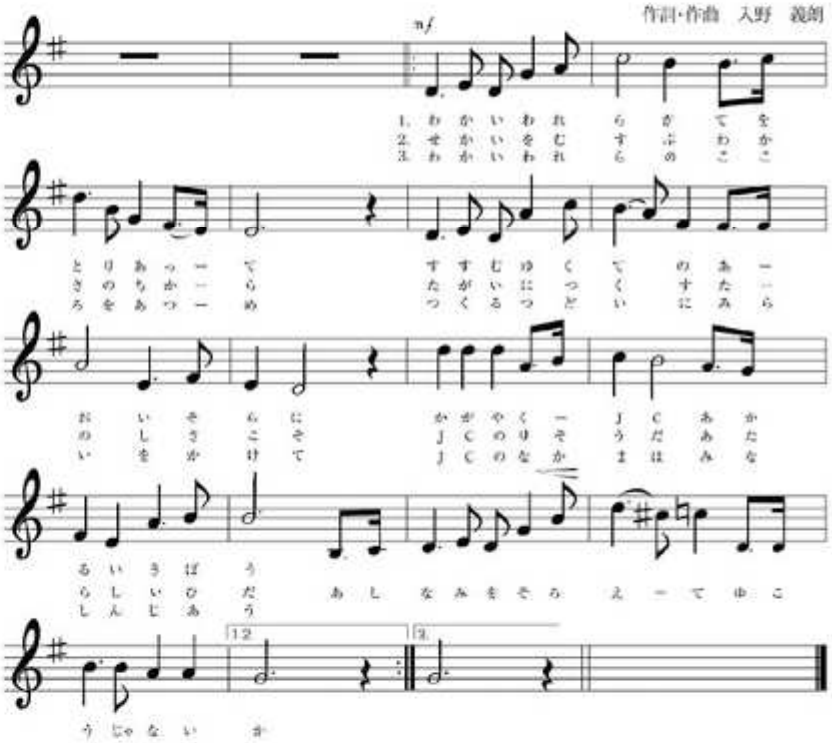
一、ＪＣ、ＪＣ、ＪＣ
世界を結ぶ　若き団結
新しき世紀の　希望となりて
永遠に繁栄えん　我等の集い。

二、ＪＣ、ＪＣ、ＪＣ
奉仕の理想　探求めつつ
祖国の進歩の　力となりて
先駆け行かん　我等の集い。

若い我等

※1956年10月、作曲家、入野義朗氏の作詞・作曲で発表されたもので、絶えず明日に向って仲間と共に前進する行進曲風の曲で、今日迄、例会の終りは勿論いつもＪＣメンバーに愛唱されている。

作詞・作曲　入野　義朗



若い我等

一、若い我等が　手を取り合って
進む行手の　青い空に
輝やくＪＣ　明るい希望
足なみをそろえて
行こうじゃないか。

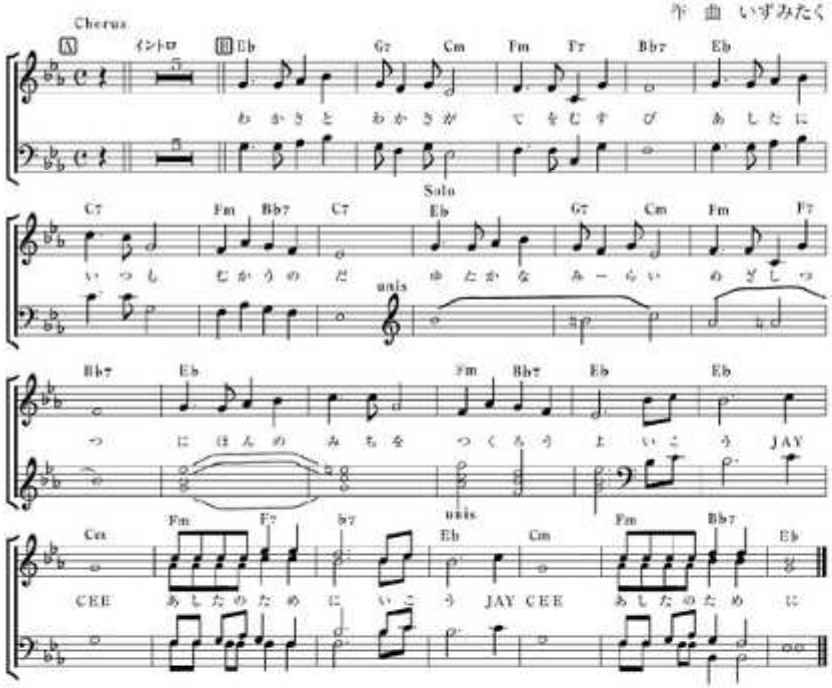
二、世界を結ぶ　若さの力
互いに尽す　楽しさこそ
ＪＣの理想だ　新しい日々だ
足なみをそろえて
行こうじゃないか。

三、若い我等の　心を集め
つくる集いに　未来をかけて
ＪＣの仲間は　堅信じ合う
足なみをそろえて
行こうじゃないか。

明日のために

※1971年2月に日本ＪＣ創立20周年記念の歌として発表されたものである。広く全国に作詞を公募し、神戸ＪＣの三木茂昭君が見事当選し、山上路夫氏が手を加え、いずみたく氏の作曲で出来上り、新しい近代的な親しみ易い曲として全国のメンバーに口ずさまれている。

作　詞　三木　茂昭
補作詞　山上　路夫
作　曲　いずみたく



明日のために

一、若さと若さが　手を結び
明日にいつも　向うのだ
豊かな未来　めざしつつ
日本の道を　創ろうよ
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のために

二、心と心を　つなぎ合い
大きな虹を　かけるのだ
生きてることの　喜びを
すべての人に　投げかけて
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のために

三、命と命が　満ちあふれ
光りとなって　燃えるのだ
世界の窓に　いつの日も
希望の夢は　はばたくよ
行こうＪＡＹＣＥＥ
明日のために

NEW JAYCEE

初版発行	昭和61年11月
再版発行	昭和62年12月
第3版発行	平成 元 年 1 月
第4版発行	平成 2 年 2 月
第5版発行	平成 3 年 2 月
第6版発行	平成 4 年 3 月
第7版発行	平成 6 年12月
第8版発行	平成14年12月
第9版発行	平成22年12月

発　行　者　　2010年度 公益社団法人 日本青年会議所
編集責任者　　2010年度「世界に輝く日本」創造会議
印刷・制作　　有限会社 レイランド